

項目	説明	
試料・情報 の利用目的 及び 利用方法	研究課題名	食道胃接合部癌における術前化学療法の短期長期成績の検討
	研究対象者	食道胃接合部腺癌と診断された患者さんのうち、2018年1月から2022年12月の間に神奈川県立がんセンターで手術治療を受けられた方
	研究目的	食道胃接合部腺癌に対する本邦における標準治療は Upfront surgery followed by adjuvant chemotherapy (先行手術+術後補助化学療法) である。食道胃接合部腺癌は比較的予後不良とされており、現在術前化学療法の開発が進められていて、その功罪は不明である。このため、我々は術前化学療法の有無による食道胃接合部腺癌の術後短期長期成績を比較検討する。
	研究方法	2018年1月から2022年12月に神奈川県立がんセンターで手術を行った clinical Stage II-IV の食道胃接合部癌症例を対象とし、術前化学療法を行った PreCT 群と術前化学療法を行わなかった Upfront 群に分けて患者背景・手術成績・再発および生存を後方視的に比較検討する。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号(識別コード)で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西暦 2025 年 9 月 16 日 ~ 西暦 2027 年 3 月 31 日
	利用又は提供を開始する時期	<input checked="" type="checkbox"/> 総長が研究実施を許可した日 <input type="checkbox"/> 西暦 年 月 日頃(研究の進捗によって前後いたします)
利用する試料・情報の項目(チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 試料:	<input type="checkbox"/> 血漿、 <input type="checkbox"/> 血清、 <input type="checkbox"/> 全血、 <input type="checkbox"/> 末梢血から抽出した DNA、 <input type="checkbox"/> 病理検体(具体的に記載: _____)、 <input type="checkbox"/> 尿、 <input type="checkbox"/> 糞便、 <input type="checkbox"/> 唾液、 <input type="checkbox"/> 胸水、 <input type="checkbox"/> 腹水、 <input type="checkbox"/> 脳脊髄液、 <input type="checkbox"/> 毛髪、 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載: _____)
	<input checked="" type="checkbox"/> 情報:	<input checked="" type="checkbox"/> 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、 <input type="checkbox"/> 年齢、 <input type="checkbox"/> 生年月日、 <input type="checkbox"/> 性別、 <input type="checkbox"/> 既往歴、 <input type="checkbox"/> 併存疾患、 <input type="checkbox"/> 外来日・入院日・退院日、 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査値、 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床所見・経過(予後追跡データを含む)、 <input type="checkbox"/> ゲノムデータ、 <input type="checkbox"/> 看護記録、 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記載: _____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター 研究責任者	消化器外科・山田貴允
	共同研究機関 および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	神奈川県立がんセンター・消化器外科・山田貴允 045 (520) 2222 利用停止のお申し出は 2025 年 12 月 31 日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります	